厚生労働科学研究費補助金【エイズ対策政策研究事業】
エイズ動向解析に関する研究（総括）研究報告書

研究責任者　羽柴知恵子　名古屋医療センター　看護部

研究要旨

本研究では、現在の動向調査では把握できない感染者等の情報を収集解析し、今後の普及啓発の対象および内容を明らかにし、その手法を提言することを目的としている。現在の HIV 感染者の多数を占める日本国籍若年 MSM が多く来場する名古屋市無料 HIV 検査会受検者の社会・疫学的情報および検査結果を解析した。HIV 検査経験割合は 20 歳代・中学/高校卒業・会社員/公務員における検査経験割合が低かった。また検査結果と既往歴の認識を比較すると HIV 検査歴があっても梅毒・B 型肝炎の既往認識割合と各疾患の既感染を表す抗体陽性率に乖離があることが明らかとなった。また名古屋医療センターに受診したサブタイプ B 感染患者の伝播クラスタ（TC）を解析した結果、数年の間に 20 名以上の東海地方の初診患者に伝播を広げた構成する患者が 30 歳未満男性が殆どの微小クラスタの存在が判明した。以上より、東海地方のある MSM 若年層ネットワークに HIV-1 が急速に広がっていた。検査会の結果も考慮すると、若年 MSM に対する検査機会提供が必要であることが示唆された。今後は検査・啓発内容および提供方法を若年 MSM を対象として具体的に提案していく必要がある。

A. 研究目的

近年 HIV 新規感染者数は減少傾向を示すことがあるものの、AIDS で診断される、いわゆる「いきなり AIDS」の患者の割合は変わらない。依然として HIV 検査の普及啓発活動が届いていない層が存在していることが考えられる。本研究では今までターゲットとされていなかった普及啓発の対象を明らかにし、その手法を提言することを目的としている。

B. 研究方法

本年度は 2018 年 5 月に行われた名古屋市無料 HIV 検査会の受検者を対象にアンケート調査を行い、検査会の受検結果と紐づけさせて回答の集計を行った。データの解析には SPSS-ver19.0 および STATA ver15.0 を使用し、統計学的有意水準は 5%を採用した。
また伝播クラスタ解析は 2013 年から 16 年に名古屋医療センターおよび当院に薬剤耐性検査を依頼した東海地方の医療機関に退院した新規 HIV 感染者を対象として行った。WEB 上で国内の伝播クラスタ（TC）を検索できるシステム”SPHNCS”を使用し、新規患者同士で近縁な伝播ネットワークを形成するものがないかどうか調べた。

C. 研究結果

受検者層および検査経験の有無

648 人の受検者のうち東海地域に居住するゲイバイセクシャル男性 499 人に限定し基本属性を集計し、生涯の検査経験の有無別に性行動や属性についての解析を行った。一番最近に受けた HIV 検査は過去 1 年以内と回答したものが 49%であった。障害の検査経験別にみると検査経験の有無と年齢、学歴、身分、過去 6 か月のハッテン場利用、過去 6 か月の男性との性交渉経験、友達やセックスフレンド、その場限りの相手との性交渉時のコンドーム使用に関連が認められた。年齢が若い方が高いものと比べて、また中学高校卒業の者の方がその他の学歴より、公務員・会社員の方が障害の検査経験を有する割合が低かった。（金子）

既往認識と検査結果の乖離

検査結果およびアンケート結果共にあり、HIV 陽性者（10 人）を除く 637 人を解析対象とした。梅毒の既感染を表す TP 抗体の陽性者は 107 人（16.8%）で B 型肝炎の既感染を表す HBc 抗体の陽性者は 105 人(16.5%)であった。TP 抗体陽性者 107 人のうち 37 人（34.6%）が梅毒を既往歴として回答せず、20 人(18.7%)が性感染症の既往なしと回答した。HBc 抗体については 105 人の陽性者のうち 62 人（59%）が B 型肝炎を既往歴として回答せず、23 人（21.9%）が性感染症の既往なしと回答していた。検査歴があっても梅毒・B 型肝炎共に実際の抗体陽性率より低かった（梅毒　13.6% vs. 18.9%, B 型肝炎 7.2% vs.17.7%: それぞれ自己申告率 vs.　抗体陽性率）。（今橋）

伝播クラスタ

2013 年～16 年の新規患者で Pol 領域

(HXB2:2253-3260)の配列が得られたものは、363 名であった。そのうち、サブタイプ B に感染した者は 327 名であった。これらの感染者由来の HIV 塩基配列と採血日・年齢・性別・想定感染経路を SPHNCS に順次投入し、TC の同定と入力データの登録を行ったところ、258/327 検体は、いずれかの TC に所属していた。そのうち 36 検体は新規同定の TC に、222 検体は既知の TC に所属していた。50 名の患者は、MSM を主な感染経路とする TC003 に所属していた。TC003 の 201 本の塩基配列と、近縁の 57 本の外国由来リファレンスについて時間系統樹解析を行った結果、数年の間に 20 名以上の東海地方の初診患者に伝播を広げた微小クラスタの存在が判明した。そこに所属する感染者は、殆どが 30 歳未満の男性であり、MSM が多かった。（椎野）

D. 考察

伝播クラスタ解析から若年 MSM のネットワークに HIV-1 が急速に広がっていることが示唆され、実際に名古屋市検査会のアンケート結果より若年層は検査経験が少ないことが判明した。また検査を受けていても性感染症の既往認識が低いことも示唆された。以上の結果より、今までの検査ターゲット層に加えて、今回明らかとなった若年 MSM をどのように検査に呼び込み、なにを従来の啓発内容に加えて啓発するか具体的に提案することが望まれる。

E. 結論

本研究より若年 MSM を対象に検査経験および性感染症の認識を上げるような啓発活動を行う必要性があることが示唆された。

F. 研究発表